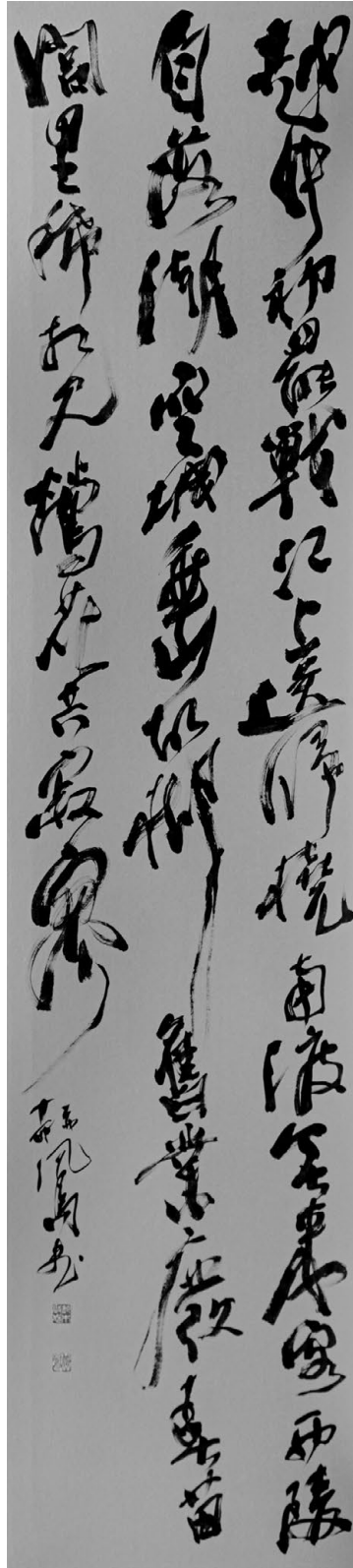




鈴木赫鳳

劉長卿詩

越中 初^{はじ}めて戦^{いくさ}を罷^やめ

江上 歸櫓^{きしう}を送^{おく}る

南渡 來客^{らいかく}無^なく

西陵 自^{おの}ら落潮^{らくしう}

(以下略)



70×170

山内香鶴

夜上受降城聞笛

回樂峰前 沙雪に似たり
 受降城外 月霜の如し
 知らず 何れの処にか 蘆管を吹く
 一夜 征人 尽く郷を望む



70×175

秋山和也

定家の歌

いかばかりみ山さびしとうらむらん
さとなればつるほととぎすかな



70×170

井上光基
問是れ寶なり
かんこ たから

清風動帷簾
晨月照幽房
佳人覓遠
蘭室
無容光
襟懷擁
壺景輕
衾覆空
牀居歡
惜夜
但左戚
怨宵長
拊枕獨
嘯歎
感感
眦心內
傷

弘

小沼典弘

長華詩

清風帷簾を動かし

晨月幽房を照らす

佳人は遐遠に處りて

蘭室には容光無し

(以下略)

是豈形馬最遠乎伏牛山
 如生野客之態若久第
 問東如亦空鬼石而後已
 候客上樓倚柱默然
 黃然之景送入作生霜
 遙可相隨之雲雲跡因於
 佳日晨拂馬路以暮
 然則相宿極新遠跡亦東
 年秋初然之態此一最
 不第乃其後可解也

重有餘暇依水而見南山
 南水之山雙山主深市能於
 亦其清氣臨潭之景亦能於
 陸渾之山其景亦能於
 以代其景其景亦能於

70×175

小野江華

宋之問詩

晨に 歇馬嶺に登り
 遙に 伏牛の山を望めば
 孤出せる 羣峯の首には
 熊羆の 元氣なるが間わり

(以下略)

舊興三石所居信美少懷市中結書房上青雲漢路無梯梯有青梯為得進酒沈雨後松為解枵
 尚於度我病強飲金樽理易如登城大鐘樓樓上樓上為要於相扁橋橋添解酒酒傾來東望
 振沈更輕仙舟身息四鄰驚飲如狂歌三弄明月魚呀湖東岸山南靜月復新羅樓是晚
 舟中宿僧長齋素食不飲不食頭乾細細散黃面塵素是月月初月滿度月信天海思

川野邊 泰 雲

蘇軾詩

籃輿 三日 山さん中ちゆうに行ゆく

山さん中ちゆう信しんに美びなれども 曠こう平へいなること少すくなし

(以下略)



祈^き社^し 佐川峰章

161×72



13.5×5.5

光輝
燦然
(両面印)

辻
敬
齋



7.5×7.5

山内白華

深根固蒂

根を深くし 蒂を固くす

(老子五十九章)